

人類学研究所の歩み

| | |
|-----------|---|
| 1935年 | 神言会教師の日本文化理解を深める目的で、人類学研究所の設立案が構想される。 |
| 同年 | ドイツのアントロポス研究所の創立者・所長であるW・シュミットが日本に立ち寄り、神言会会員と討議した結果、アントロポス研究所日本支部設立案を神言会総会に提出する。しかしその後、計画はいったん棚上げされる。 |
| 1948年 | 南山大学設置申請書が文部省に提出された際、人類学研究所の設置が盛り込まれる。 |
| 1949年9月1日 | 大学創立より半年遅れて「人類学民族学研究所」として開所式をおこなう。所長は沼澤喜市、副所長は中山英司。 |
| 1953年夏 | 人類学民族学研究所を教師館であった五軒家町の旧ピオ十一世館に移転する。 |
| 1954年 | 第二代所長にA・レンメルヒルトが就任。 |
| 同年 | 名称を「人類学研究所」に統一する。 |
| 1963年 | 北京で1942年に創刊された『Folklore Studies』を、『Asian Folklore Studies』とし、人類学研究所で刊行(～2007年)。 |
| 1964年 | 南山大学が山里新校舎に移転したのに伴い、研究所も第1研究棟6階に移転する。附属の陳列室は新図書館地下1階に収まる。 |
| 1970年 | 沼澤喜市学長が研究所所長事務取扱を兼務。 |
| 1972年 | 沼澤喜市が学長退任後、所長に就任(～1973年3月31日)。 |
| 同年 | 『人類学研究所紀要』1号発行(～1979年8号)。 |
| 1973年 | 所長にA・レンメルヒルトが就任(～1975年3月31日)。 |
| 1975年 | 所長事務取扱に小林知生が就任(～1978年3月31日)。 |
| 1978年 | 所長事務取扱に山田隆治が就任(～1979年3月31日)。 |
| 1979年 | 改組により専任研究所員(第一種研究所員)が配置される。所長事務取扱および第二種研究所員(兼)に山田隆治が就任。 |

| | |
|-----------|---|
| 同年 | 附属の陳列室が南山大学人類学博物館と名称変更し、博物館相当施設となる。 |
| 1987年 | 所長事務取扱に倉田勇が就任(～1991年3月31日)。 |
| 1991年 | 所長事務取扱に山田隆治が就任(～1995年3月31日)。 |
| 1992年 | 『人類学研究所通信』第1号刊行(～2010年第17・18号)。 |
| 1995年 | J・W・ハイジックが南山宗教文化研究所所長、人類学研究所所長を兼務。 |
| 1996年 | 所長にクネヒト・ペトロ(第一種研究所員)が就任(～2003年3月31日)。 |
| 2003年 | 所長に森部一(第二種研究所員)が就任(～2005年3月31日)。 |
| 2005年 | 所長に坂井信三(第二種研究所員)が就任(～2007年3月31日)。 |
| 2007年4月1日 | 所長不在。 |
| 同年5月8日 | 所長に渡邊学(南山宗教文化研究所第一種研究所員)が就任。 |
| 2008年 | 『Asian Folklore Studies』を『Asian Ethnology』と改名して刊行(～現在)。 |
| 2010年 | 所長に後藤明(第二種研究所員)が就任(～2018年3月31日)。 |
| 2011年3月 | 『年報人類学研究』第1号刊行(～現在第9号)。 |
| 2013年3月 | 『人類学研究所研究論集』第1号刊行(～現在第8号) |
| 2018年2月 | 『じゅんるいけんBooklet』第1号刊行(～現在第5号)。 |
| 2018年4月 | 所長に渡部森哉(第二種研究所員)が就任(～現在)。 |

(渡邊学(編)2010「人類学研究所小史」『人類学研究所通信』第17・18号、pp.3-7を参考に作成)